

コロナに負けずに頑張ろう！！

慶應義塾大学理工学部 吉岡 直樹

昨年3月に有機結晶部会の副会長を仰せつかってあっという間に一年が経ちました。有機結晶ニュースレターの巻頭言の依頼を受け、自分の本棚に並んだ有機結晶ニュースレターを見つめながら筆をとっているところです。ニュースレターには特集記事、要旨、最近の研究動向が載せられており、毎号非常に充実した内容です。様々な冊子体が電子化され便利になってきましたが、思いついた時に頁をめくってもいろいろな情報に触れられるので、このニュースレターを大変重宝しています。

筆者は、もともと機能性高分子の磁性研究からスタートした関係で結晶に関する知識はゼロでした。慶應大にきて隣の学科におられた大場先生のご指導を受けながら、有機結晶の面白さに引き込まれました。自分たちで合成したラジカル分子の三次元的な配列を初めて見たときの感動は、今でも忘れられません。また結晶座標を用いた分子軌道計算は、電子物性に関する非常に豊富な情報を与えてくれます。このように有機結晶は化学の重要な役割である“ものづくり”を明快に謎解きしてくれる非常に魅力的な分野です。有機結晶の解析は時間的にもコスト的にも昔に比べれば身近なものになっています。若い人たちにもどんどん有機結晶の魅力に触れてもらえればと思います。有機結晶部会はこれから有機結晶の研究を始めようとする学生さん、若手研究者にとっても大変有益な場です。今後若手の会員がさらに増えていき、部会の活動が活性化していくことを期待しています。

2020年は、夏の東京オリンピック・パラリンピックで巷は大変盛り上がっています。また化学の世界では、5年に一度の環太平洋国際会議（Pacifichem）が12月に開催されます。Pacifichem2020で部会員が関連するシンポジウムの一覧は、本ニュースレターに掲載されていますので、どうぞご覧ください。さらに、今年は多数の部会員が執筆し坂本先生、植草先生の編集された“Advances in Organic Crystal Chemistry: Comprehensive Reviews 2020”がSpringer社より出版される年でもあり、日本の有機結晶の発展が世界に向けて情報発信されていくこととなります。

今年は、1月下旬からテレビのニュースもネットの話題も“コロナ”の三文字で埋めつくされています。筆者のいる大学の上も横浜港に向かう取材ヘリが頻繁に飛ぶようになったのも東の間、電車の中はマスクをした人だらけになりました。さらに3月の記念すべき100回目の日本化学会春季年会は、開催中止となってしまいました。特に今回は有機結晶の第4回アジア国際会議があり、近隣国の有機結晶分野の研究者と交流できる絶好の機会だっただけに、非常に残念です。ウィルスと名の付くものは、コンピュータに届く電子的なウィルスの方が大きい被害をもたらすものと思い込んでいました。このところ我が国は、地震、台風などの自然災害に毎年のように悩まされています。これまで特に気にすることなく学会に行って発表し、議論し、そして夜には仲間と楽しくお酒を飲んだりする自由をこの“コロナ”に奪われているわけで、学会活動にとっては大きな災害です。分子が集まっての有機結晶、研究者がFace to Faceで集まっての学会活動です。そういう意味で“コロナ”は、人が集合化する引力を斥力に変える恐ろしいものということになります。一日も早く普通の日常に戻り、秋に名古屋で開催される第29回有機結晶シンポジウムでは、皆さんと一同に集まれることを願っています。